

## 時間外勤務の現状分析から業務改善に向けて

キーワード：時間外勤務 タイムスタディ

3階東病棟 ○良永実耶 松木一弘 國松真由美 渡辺隆明 権藤清美

### 【目的】

タイムスタディを行い、時間外業務となっている因子を調査し、業務改善に繋げていく

### 【方法】

1. 対象：当病棟看護職員 21 名（管理者・研究者は除く）
2. 研究期間：平成 28 年 8 月～平成 29 年 2 月
3. 調査方法：タイムスタディによる実態調査 平成 28 年 9 月

### 【倫理的配慮】

・実態調査は対象者へ文書にて研究目的を明記し研究への参加は自由意志であること、回答の拒否による不利益が生じない事、得られたデータは本研究目的以外に使用しない事を説明し同意を得る。調査は無記名で行い、データは統計によって処理され個人が特定されないように配慮し、プライバシーを遵守した。

### 【結果】

項目別時間平均を平均アンケート回答者数 4.3 人/日で割り、1 人平均として集計し上位 5 項目を下記に示す。

1. 記録：86.6 分（時間外記録 39.1 分）
2. バイタルサイン測定・状態観察：77.8 分
3. その他ケア（吸入吸引・人工肛門管理、パウチ交換）：56.5 分
4. 回診準備・回診介助：40.3 分
5. ナースコール対応：35.7 分

時間外業務では 1 人平均 54.8 分であり、記録が 39.1 分と高い割合を占めていた。

### 【考察】

今回の研究では時間外勤務の多い日勤業務に焦点をあてタイムスタディ調査を行った。日勤業務で行う記録時間は 1 人平均 125.7 分であり、これは規定業務時間の約 3 割を占める。記録が長時間となる要因として、ナースコールや患者対応などにより記録の中断が多いことがあげられる。そこで、集中して記録に取り組める環境をつくるためには、交互に記録する時間を設けることが有効ではないかと考えた。その手段として、例えば 1 時間を記録時間とし、記録する者とナースコールや患者対応を行なう者に分け、30 分交互に記録する。記録の充実によるメリットは大きく、申し送り時間の短縮や業務前時間外の平均 38.5 分も無くすることが可能ではないかと考えた。しかし時間設定はその日のイベントやスタッフ人数に影響するため、管理職者、業務改善チームと検討していく必要がある。

阿部<sup>1)</sup>は「雇用の質」は、「医療の質向上」、「患者満足度の向上」、「経営の安定化」にもつながり、好循環サイクルを生み出すことができる。看護師などが自分たちの置かれた勤務環境の現状を把握し、抽出した課題に対する改善を行うことで創意工夫による経営の安定や、職場がより魅力的になることによって人材確保にも貢献する効果が期待できる。と述べている。今回の研究ではタイムスタディ調査を行い、阿部が述べる勤務環境の把握・課題の抽出することが行え、抽出した課題への改善方法を検討することも出来た。今後さらに、抽出した課題の改善を管理職者・業務改善チームと連携を図り創意工夫を行っていければ、より魅力的な勤務環境になるのではないかと考える。